

ヒガマツ版 UDLハンドブック

学びのユニバーサルデザインの視点に立った「わかる」授業づくり

ユニバーサルデザインフォントのススメ

この冊子は、ユニバーサルデザインフォントを用いて作成しました。右のようにフォント名に「UD」と書かれているものがそれにあたります。

○視覚過敏の人にとって…
MS明朝体は、線が細すぎて見えにくい
→ゴシック体を使う。また明朝体の場合は、「游明朝」や右の「BIZ UD 明朝」に切り替える。

ちなみに、ゴシック体のみで書かれた文章は、線が途切れて読めなくなってしまう。より多くの生徒にとって「見やすく、読みやすく、間違いなく、伝わりやすい」プリントワークシートにするため、こういったフォントをうまく活用していきたい。

第一版 2020.4
東松島高等学校

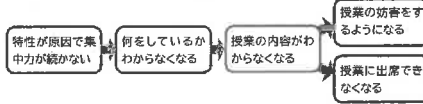
I. 学びのユニバーサルデザイン(UDL)の視点

○ UDLとは何か？

Universal Design for Learning の略。すべての子どもたちを対象に、もろくなく十分に柔軟性のある学習環境を構築するためのデザインのことであり、すべての子どもたちの教育を改善していくことです。

○ 子どもたちの中には…

さまざまな特性から、「教室にいてくれない」「授業に集中できない」と感じる子どもたちがいるとしたらどうでしょうか。一歩と…



○ UDLの視点とは？

学力差や発達障害の有無にかかわらず、生徒全員が「わかる」「できる」より工夫・配慮した授業をめざすことです。

○支援の必要な生徒には「ない」と困る ○その他の生徒には「あると便利」
それが「学びのユニバーサルデザイン」の視点に立った授業改善の工夫です。

【コラム】「わかる」「できる」授業と、教師と生徒のレポート関係のつながり
生徒との関係性の構築は、生徒が「わかった」「できた」と感じる授業にすることが、道徳的によい実は一歩の前進です。授業で各関係性が構築できれば、学習障害をはじめ、すべての場面における生徒指導の場が広がります。ただ、多様な生徒がひとつの教室にいる本校の場合、すべての生徒が「わかる」「できる」授業の実践に難しさを覚えることもあります。UDLの視点に基づく授業づくりが、それを可能に近づける有効なツールと考え、少しづつ工夫と実践を重ねていきたいと思います。

II. 発達障害の特性と配慮の観点

○ 発達障害の特性

LD (読字性学習症) 固:視覚認知が弱い 固:聴覚認知が弱い 固:記憶力が弱い	ADHD (注意欠如・多動症) 固:衝動に弱い 固:注意力が持続しない	ASD (自閉症スペクトラム症) 固:変化に弱い 固:想像力が乏しい
-------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------	----------------------------------------------------

※学習における「困り感」の表れ方に特化して、彼らの発達特性を記載しています。

【コラム】最近聞かなくなった、DCDと呼ばれる特性とは

○読字性学習症=LD ○発達性協調運動症=DCD

実践科目の先生は、ピンとくるのではないのでしょうか。「極端に不器用」「運動が「こ」でない」等の特性は、発達性協調運動症(障害)に該当する可能性があります。彼らは、いくつかの動作の動作をつなげる運動に困難を抱えています。

○ 配慮の観点

生徒が自分の困り感(発達障害や特性)に気づき、自分の特性と上手に付き合っていくことができる方法を身につけさせる。

生徒が生き方を身につけられるように工夫する。

一方的に教え込むのではなく、生徒の良さをどのように伸ばすかを考える。

どのように生徒に寄り添うことができるかを考える。

【コラム】発達障害と知的障害の違い

○発達障害＝発達量の偏り ○知的障害＝発達量の不足

発達障害と知的障害は異なるものですが、発達障害者の中には知的障害を伴う方が存在します。反対に、発達障害であっても、知能に水準が高い人もいます。

III. ヒガマツ版UDLの取り組み

○特性への対応
LD:固:読字認知が弱い 固:聴覚認知が弱い 固:記憶力が弱い
ADHD:固:衝動に弱い 固:注意力が持続しない
ASD:固:変化に弱い 固:想像力が乏しい

【1. 授業の構造化】 メリハリのある、具現化のある授業	【2. 指示・発問の工夫】 すべての生徒が「わかる」
①授業の開始・終了を定期にする。 固:固:対応 固:固:対応	①注目させてから話す。 固:固:対応 固:固:対応
②時間の振り回りをする。 固:固:対応 固:固:対応	②受身な声でつぶやきと話す。 固:固:対応 固:固:対応
③(重点目標)本時の目標を明示し、常に確認できるようにする。 固:固:対応 固:固:対応	③主述を明確にした短い文で話す。 固:固:対応 固:固:対応
④課題に取り組む時間を具体的に示す。 固:固:対応 固:固:対応	④抽象的な表現を選び、具体的な指示をする。 固:固:対応 固:固:対応
⑤(重点目標)本時の学習の成果を確認する。 固:固:対応 固:固:対応	⑤一つ一つ伝わっているか、確認する。 固:固:対応 固:固:対応
【3. 板書・プリントの工夫】 全ての生徒が取り易いように	【4. 授業への参加を促す工夫】 お互いを尊重できる空間づくり
①番号カードを思い分けて見やすく書く。 固:固:対応 固:固:対応	①机の上に必ず必要な教材があるが、視覚的。 固:固:対応 固:固:対応
②板書の量はポイントをついて見やすく書く。 固:固:対応 固:固:対応	②導入は平易に、スモールステップで進める。 固:固:対応 固:固:対応
③ノートを取る時間を確保する。 固:固:対応 固:固:対応	③補助教材(ICT・模型・実物など)を用いる。 固:固:対応 固:固:対応
④ノートに何を書けばいいのかわかりやすく示す。 固:固:対応 固:固:対応	④一斉授業以外の複数の活動を組み合わせる。 固:固:対応 固:固:対応
⑤プリントの空間は大きくする。 固:固:対応 固:固:対応	⑤机間巡視を行い、個別に声をかける。 固:固:対応 固:固:対応
⑥プリントをきちんと保存できるようにする。 固:固:対応 固:固:対応	⑥肯定的に褒め、できたことを具体的に褒める。 固:固:対応 固:固:対応

ヒガマツ版UDL 取り組み状況調査(4月9日・2月実施)

項目	氏名			
	取り組んでいる	だいたい取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない
1. 授業の構造化(メリハリ、見出しのある授業)				
①授業の開始・終了を定期にする。				
②時間の振り回りをする。				
③本時の目標を明示し、常に確認できるようにする。				
④始めに授業の流れを知らせる。				
⑤課題に取り組む時間を具体的に示す。				
⑥本時の学習の成果を確認する。				
2. 指示・発問の工夫				
①注目させてから話す。				
②大きな声ではっきりと話す。				
③主述を明確にした短い文で話す。				
④指示は一度に一つにする。				
⑤抽象的な表現を選び、具体的な指示をする。				
⑥一つ一つ伝わっているか、確認する。				
3. 板書・プリントの工夫				
①番号カードを思い分けて見やすく書く。				
②板書の量はポイントをついて見やすく書く。				
③ノートを取る時間を確保する。				
④ノートに何を書けばいいのかわかりやすく示す。				
⑤プリントの空間は大きくする。				
⑥プリントをきちんと保存できるようにする。				
4. 授業への参加を促す工夫				
①机の上に必ず必要な教材があるが、視覚的。				
②導入は平易に、スモールステップで進める。				
③補助教材(ICT・模型・実物など)を用いる。				
④一斉授業以外の複数の活動を組み合わせる。				
⑤机間巡視を行い、個別に声をかける。				
⑥肯定的に褒め、できたことを具体的に褒める。				

※年間3回、取り組み状況を把握する教員向けアンケートを実施いたします。「共に学び、最終年は、報告書の作成を行います。その資料としても活用させていただきます。」

◎ヒガマツ版UDLの取り組み 重点目標 その1

1-③ 本時の目標を明示し、常に確認できるようにする。

【方法】本時の目標やねらいを、黒板したり、KPD(授業事例欄)を活用して提示したりして、生徒からよく見える場所(90分間)を明示し、確認できるようにする。

【ポイント】「についてわかる」「できるようになる」など、資質・能力ベースの表現に工夫すると、生徒は取り組みやすくなります。

○対象特性とその効果

LD 認知の特性によるが、聴覚認知や記憶力が弱さを持っている生徒にとって情報を視覚化する事で、安心して授業に取り組むための基礎的支援となる。	ADHD いったん集中力が途切れてしまっても、明示された本時の目標を確認することで、必ずから授業に復帰できるようにする。	ASD 見通しがないと不安を覚えることがあるが、明示された本時の目標を確認することで、安心して授業に取り組めるようになる。
----------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------

【コラム】「授業の構造化」との組み合わせで効果アップ

授業の導入時、「本時の目標やねらいを明示する」と同時に、「本時の学習の流れ」を提示することで、生徒の必要に応じて授業全体の見通しを伝えることができます。さらにその他の生徒も含め、主体的に授業に取り組める雰囲気をつくることができるようになります。なお、「本時の学習の流れ」は、黒板や短い言葉で示す、より効果的です。

○本校における実践事例



◎ヒガマツ版UDLの取り組み 重点目標 その2

1-⑥ 本時の学習の成果を確認する。

【方法】授業のまとめる時間に、「ふりかえりシート(リフレクションシート)」や「ふりかえり記入欄」を使って、本時の学習の成果を確認させよう。ねらいは「メタ認知」させること。「メタ認知」とは、自分の思考や行動を客観的に把握し、統括することです。

【ポイント】時間の始めに明示した、「本時の目標」に取り組みさせるのが基本形です。それ以外に、教科書に記した上からいろいろありそうです。なお「ふりかえりシート」は、簡単なものでかまいません。以下に示す実践事例やsaのサンプルを参考に、まずは実践してみよう。

○対象特性とその効果

LD 自己の学習特性の理解に繋がる。特に、記憶力が弱さを持っている生徒にとっては、知識の定着の手助けになる。	ADHD 「振り返りの時間」を用意することで、学習活動に集中しやすくなる。一斉講義型授業が苦手な生徒にとって、主体的な学習の時間になる。	ASD 「振り返りの時間」を設定し、一定の「ターン」にすることで、授業の構造化に繋がる。見通しが得られ、安心して授業に取り組めるようになる。
------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------

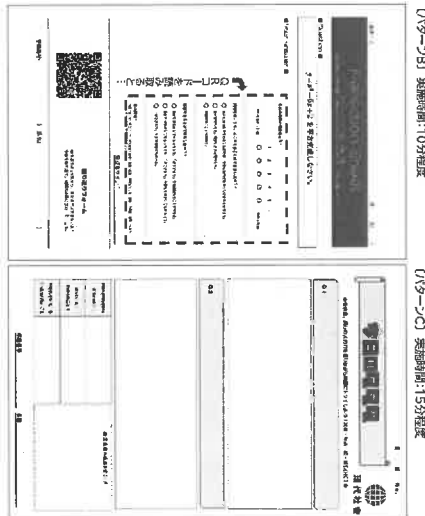
○本校における実践事例

(パターンA) 実施時間:5分程度

令和元年度 【簿記1】

振り返りシート 姓 名

月	日	振り返りシート	振り返りシート	振り返りシート



【コラム】自分の授業に合う振り返りシート探し

googleなどで検索すると、「振り返りシート」の事例が見つかることができます。また、本校でも実践の先生方が活用しており、ご紹介した以外にも、サンプルとしてご提供いただきました。「目標の明示」も、これらのデータを下に参考にしましたので、適宜修正してお使いください。

※Sa6.各種委員会 委員長 佐藤 先生 特別支援教育委員 佐藤 先生 【活用】ヒガマツ版UDLハンドブック